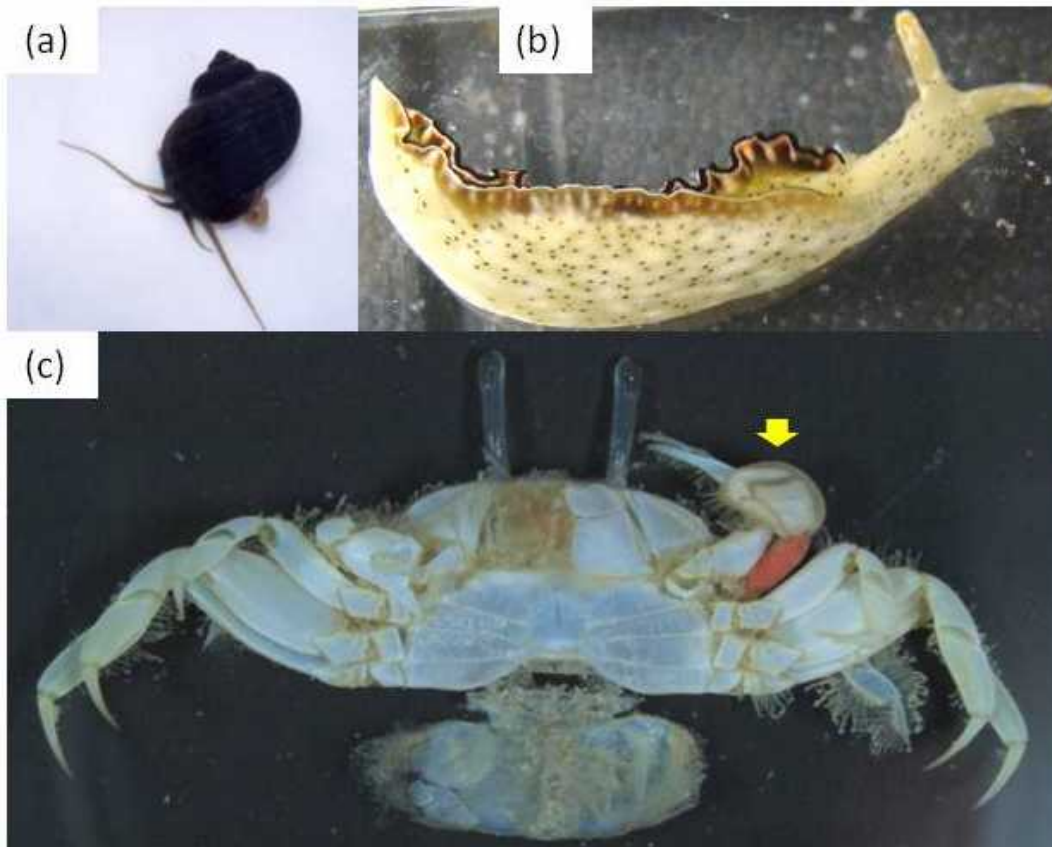


淡水・海洋生物の生態・保全・防除に関する研究

環境科学コース 遊佐 陽一



(a) 侵略的外来種スクミリングガイ；(b) 囊舌類テンテンコノハミドリガイ；(c) 稀少フジツボ類ハサミエボシ（矢印）

生物学としては、水生動物を主な対象として、生物の多様性と統一性がどのような理由で生じ、維持されているかについて知りたいと思っています。それについての具体的な内容は、生物科学コースの研究概要を見てください。環境科学としては、種間関係を利用した外来種の新たな防除技術の開発や、希少種の保全を目指しています。外来種については、たとえば環境の復元によって在来天敵相を活性化させて侵略的外来種スクミリングガイを制御する試みをしています。保全については、奄美や沖縄の干潟に生息するハサミエボシという変わったフジツボや、深海生物のホネクイハナムシなどを対象としています。彼らの生活史の解明や飼育技術の開発を通して、絶滅リスクの軽減を目指します。

キーワード：貝類，甲殻類，生活史，種間関係，外来種